

▶今年の抱負として書いた「進」の色紙



毎年、ケーブルテレビの新春特別番組の収録があり、新年の抱負を漢字で書くコーナーがあります。昨年は、コロナ禍を乗り越えて新たな暮らしを始めたという思いで「始」と書きました。昨年5月、3年余りにわたるコロナのトンネルをようやく抜け出しました。徐



々に暮らしに活気が戻り、人々の交流も再開され、まちにはこれまで以上のにぎわいを感じられます。コロナ禍を脱して迎える2024年の漢字は「進」。さまざまな課題に立ち向かいながら、明るい未来へ向けて市を少しでも前に進めていきたいという強い思いを込めて選びました。今年の干支は「甲辰」。十干の1番目の「甲」と、草木が生長して活力が盛んになる状態を表す十二支の「辰」が合わさり、「いままで準備してきたことが形になる、縁起が良い年」といわれています。 渋川市においても、念願の新美術館が、3月にオープンします。また、上信自動車道渋川西バイパス、国道17号中村交差点の立体化、古巻公民館、渋川駅前広場など、市の躍進に必要な整備が着々と進んでいきます。これらにより、渋川市が大きく「前進」する年になると思います。 皆さまにとりましても、努力が実り、夢の実現が前に進む1年になりますよう、心からお祈りします。

渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館 (TEL 253215)

美術の小窓

《ミートンのみた夢》

糸井 千恵美 作

2006年

縦15.5cm×横11.4cm

素材:紙、インク



群馬版画家協会の作家が中心となって立ち上げ、四半世紀を超えて毎年製作されている創作版画集があります。昨年には第36集が刊行されました。本物の版画作品が収められた版画集『黎』は、長く発行し続けられているという点では他に類を見ない版画集です。今回は、その版画集の中から作品を紹介します。

糸井千恵美(1962-)は、銅版画技法で、主に動植物をモチーフにした作品制作をしています。この作品は、爽やかな青色を使い、飼猫をモデルに、初夢をテーマにして描かれたものです。皆さんは、どんな初夢を見ましたか。

1月26日(金)まで市役所第二庁舎1階回廊の北東の壁面で、年明けを彩る6人の作家の作品を展示しています。

●市美術館は、3月3日(日)にオープンします

地域おこし協力隊

長沼隊員のおすすめスポット

— Vol.34 —



明けましておめでとうございます。2024年もよろしくお祈りします。

新年初のおすすめスポットは、赤城インターチェンジ近くにある見晴台ポケットパークからの景色です！ここからは迫力のある榛名山を見ることができます。昼間、夕暮れ時、夜更け前と、1日を通して全く違う顔の榛名山を楽しめます。

私のおすすめは、やっぱり夕暮れ時。空が夕焼け色に染まり、陽が落ちていくとともに街の明かりがともっていくという、あの移り変わりがとてもきれいです！



▲協力隊のSNSはこちら

